

2025 年 10 月

「症・病・証」の中医学概念及び臨床応用

上海中医薬大学付属日本校 陳 雷

一、中医学の「症・病・証」とは

（一）「症・病・証」の概念

1. 漢字の字義
2. 中医学の定義

（二）「症・病・証」三者の関係

二、「症・病・証」の中医学臨床応用

（一）疾病を認識する方面の応用

1. 発病の要点を掴む
 - ①病を分類し、正邪盛衰を判断する。
 - ②証を弁別し、ある段階の総合状態を判断する。
2. 疾病の発展方向を把握する
 - ①症の多少・強弱・増減
 - ②証の転化と変移
 - ③病の好悪・軽重

（二）疾病を治療する方面の応用

1. 弁証論治
症のまとめ → 証の弁別帰納 → 病の概括
(四診) (陰陽表裏寒熱虚実) (正邪盛衰)
2. 同病異治・異病同治
 - ①同病異治 同一疾病の違い証に対する治療
 - ②異病同治 違い病の同じ証に対する治療
3. 未病防変
 - ①病邪の転化伝播の先を予防治療する。
 - ②正気の損傷消耗を予防治療する。